



## システム設定

この章では、次の内容について説明します。

- [システム設定 \(1 ページ\)](#)

## システム設定

[システム設定 (System Settings)] ページで、マスター アプリケーションを設定します。このページで、監視するレスポнда (PCA ノード) を追加できます。

- [はい (Yes)] をクリックすると、マスターノードが有効になります。
- [いいえ (No)] をクリックすると、マスターノードが無効になります。「UC運用ダッシュボードのマスターノードを無効にしますか」というメッセージが表示されます。
- [はい (YES)] をクリックして、マスターノードの削除を確認します。



(注) マスターの有効化は、デフォルトで [はい (Yes)] の状態にあります。マスターを無効にすると、マスターとそれに関連付けられたレスポндаとの間で通信は行われません。

## 関連付けられたレスポндаの追加または削除

表には、関連付けられているレスポндаの一覧が示されています。

フィールド	説明
ホスト名	レスポндаノードのホスト名です。
IP アドレス	レスポндаノードの IP アドレスです。
管理されたクラスタ数	関連付けられたレスポндаノードで管理されているクラスタの数です。

フィールド	説明
レスポンド ステータス	Master に登録したレスポンドのステータスを表示します。
登録日時	レスポンドを Master に登録、または登録解除された日時です。
ステータス理由	<p>Master に登録した各レスポンドのステータスに関する理由を示します。さまざま理由が、次のとおりに表示されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>登録の却下 理由 - マスター IP がレスポンド側で承認されていません</li> <li>正常に登録されました</li> <li>レスポンドが Suspended モードです</li> <li>レスポンドに連絡できません</li> <li>レスポンドが登録解除を開始しました</li> <li>過去 2 サイクルの間にデータを受信していません</li> </ol>

#### 関連付けられたレスポンドの追加または削除

1. [追加 (Add)] をクリックして、関連付けられたレスポンドを追加します。

ポップアップした [レスポンド IP (Responder IP)] フィールドに、追加するコンマ区切りのマスター IP アドレスまたはホスト名を入力します。

2. 削除するレスポンドのボックスをオンにします。

[選択したレスポンドを削除しますか (Do you want to delete the selected Responder(s))] というメッセージが表示されます。

選択したレスポンドを削除するには、[はい (Yes)] をクリックします。

選択したレスポンドを維持するには、[いいえ (No)] をクリックします。



(注) [システム設定 (System Settings)] ページでレスポンドを削除すると、対応するクラスタ データも削除されます。

## ジョブ頻度の設定

[Cluster Summary Job Frequency] のドロップダウンボックスを使用し、必要に応じてクラスタ概要のジョブ頻度を 1、3、5、または 10 分に設定します。



(注) デフォルトの時間間隔は **5** 分です。

[適用 (Apply) ] をクリックします。



- (注)
1. ジョブ頻度は、すべてのレスポндаに適用されます。選択した各時間間隔に対して、レスポндаは、集計されたクラス概要に関する情報を **Master** に送信します。
  2. メガクラスタの場合、間隔が大きければ大きいほど (>5分) 精度が高まります。小さいクラスタ (ノード数が -3~5) と少ない PCA (<=5) の場合は頻度を少なくします。

## 共有秘密キーの設定

### 手順

- マスターの設定中に [レスポнда設定 (Responder settings) ] ページで設定したのと同じ共有秘密キーを入力します。
- **Master** と関連付けられたレスポндаの両方に同じキーを提供する必要があります。
- [システム設定 (System Settings) ] ページですべてのフィールドを設定したら、[適用 (Apply) ] をクリックします。

